

2023年度

川崎市視覚障害者情報文化センター  
指定管理事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

# 目次

ページ番号

1. 総括	-----	1
2. 事業の成果	-----	1
(1) 点字図書館事業	-----	1
(ア) 図書の貸出・提供	-----	1
(イ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声ガイドの製作 (a～c)	-----	3
(ウ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声ガイド 製作ボランティアの養成 (a～c)	-----	4
(2) 相談・訓練事業の取り組み	-----	6
(ア) 相談・訓練実績	-----	6
(イ) 訓練生同士の懇親会の開催	-----	8
(ウ) 訓練生屋外交流会の開催	-----	8
(エ) 視覚障害学生交流イベント	-----	9
(3) 視覚障害者用具の展示と斡旋	-----	9
(4) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及	-----	10
(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携 (a～d)	-----	10
(イ) 啓発・普及 (a～b)	-----	12
(5) 広報活動・イベントの開催	-----	12
(ア) 広報活動 (a～c)	-----	12
(イ) イベントの開催 (a～h)	-----	14
(6) 防災・減災	-----	21
(ア) 避難訓練の実施	-----	21
(イ) 緊急連絡網の整備	-----	21
(ウ) 新型コロナウイルス感染予防対策について (a～d)	-----	21
(エ) 新型 AED への機器交換	-----	21
(7) その他	-----	
川崎市視覚障害者福祉協会への連携強化事業について	-----	21
3. 利用状況	-----	23
(1) 閲覧・貸出	-----	23
(2) 資料製作	-----	24
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成	-----	25
(4) 相談・訓練事業の取り組み	-----	26
(5) 啓発・普及	-----	26
(6) その他 (再委託事業)	-----	27

## 1. 総括

今年度（2023年度）は新型コロナウイルス感染症が5月から5類に移行し、コロナ禍から徐々に日常へ戻しながら事業を進めた1年でした。

図書の貸出では、利用登録者数は増加しましたが、CD図書の貸出、ダウンロードサービスでの録音図書提供数は前年より減少しました。図書製作では音訳ボランティアの養成を行い、全17回の講座を半年にわたり開催しました。受講生8名が全員合格し、音訳者としての活動がスタートしました。

相談・訓練事業では、長期にわたる訓練よりも、短期間で行う相談のニーズが高く、歩行、パソコン・ICT（スマートフォン等）機器など、各種の相談件数が大きく増えました。また、医療機関をはじめ障害者相談支援センター、地域包括支援センター、役所の障害担当などに事業説明会を行ったり、医療機関・障害者関係機関の方々と毎月オンラインの情報交換会を行った成果が徐々に表れ、各方面から紹介され来所する方が増えてきています。地域資源の一つとして当センターが認知されてきていると思われまます。

イベントへの参加者も徐々に増え、12月には例年並み、或いはそれ以上の参加者数があり、当事者のみなさんも日常を取り戻している様子でした。

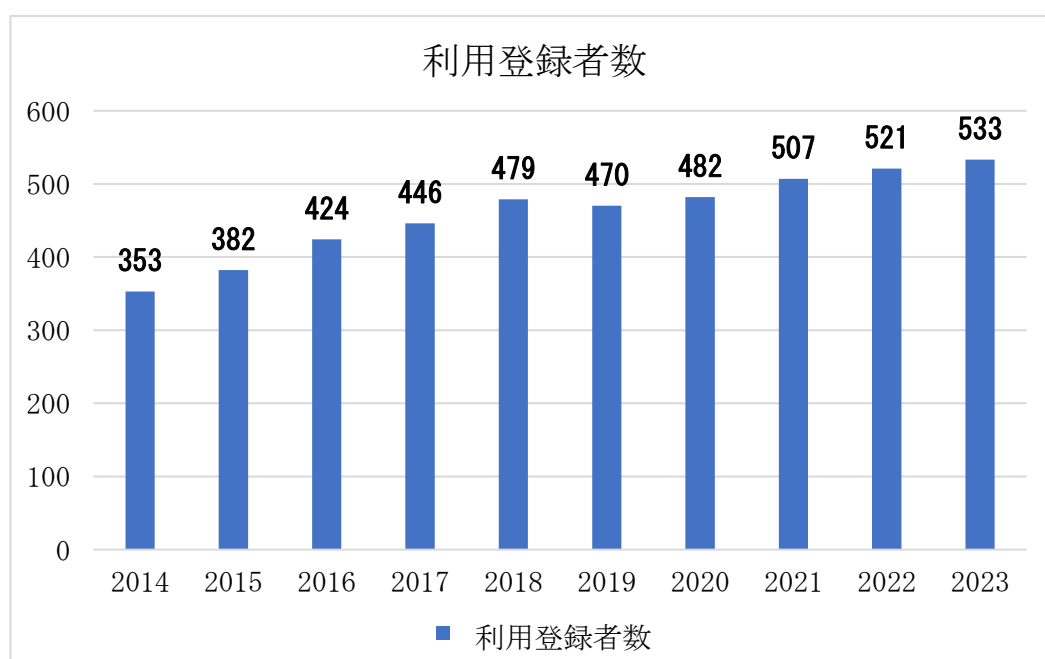
## 2. 事業の成果

### (1) 点字図書館事業（図書の貸出・提供/製作/ボランティアの養成）

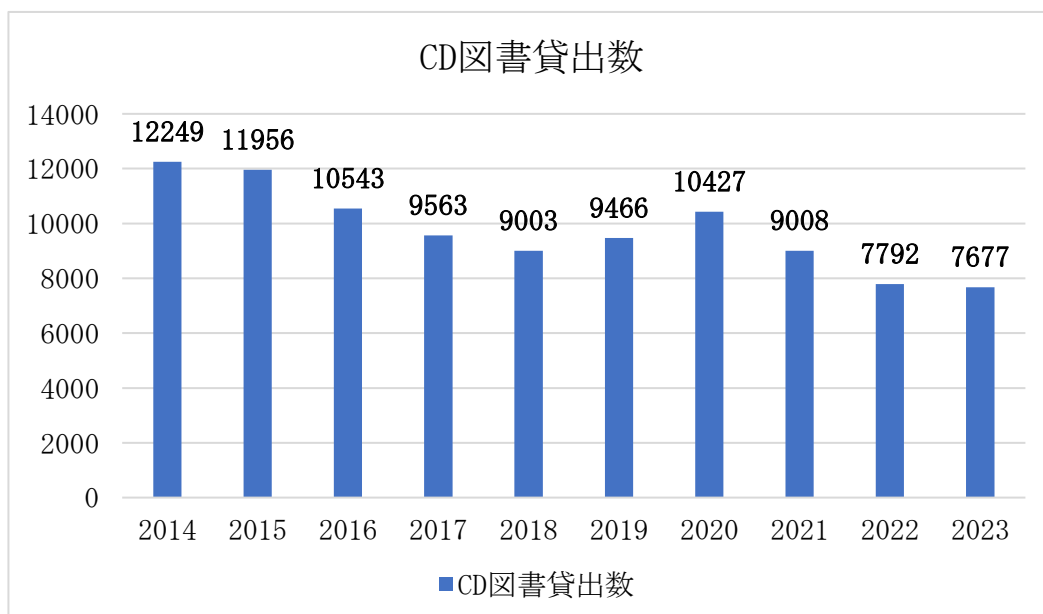
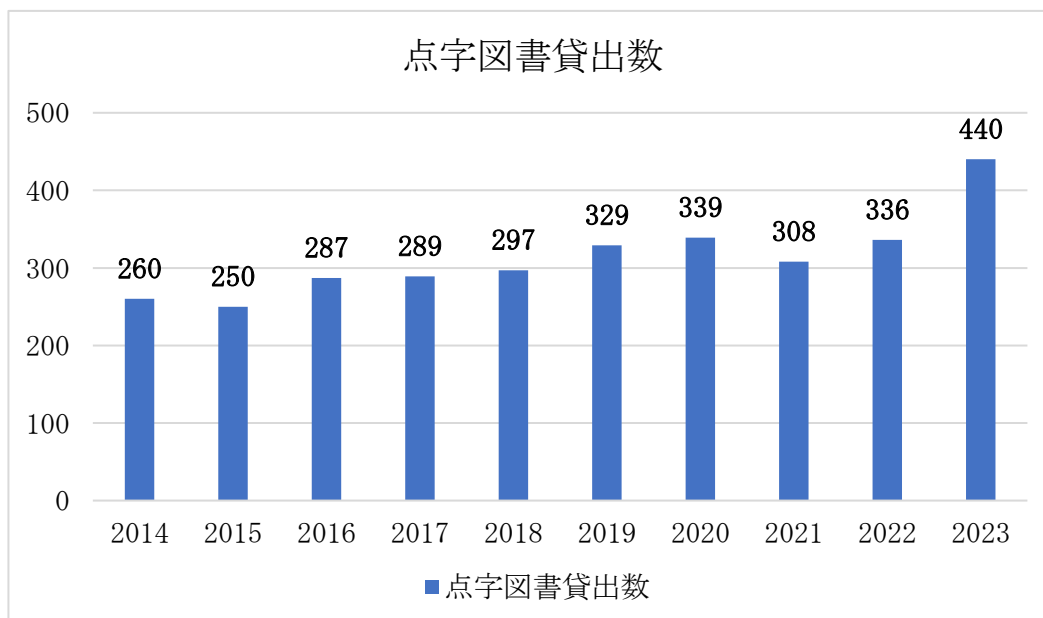
利用登録者、点字図書・CD図書、ダウンロードの利用状況を説明します。

#### (ア) 図書の貸出・提供

今年度の利用登録者数は前年度より39名増加しましたが、登録した本年度内にご逝去になるなどのケースも見られ、最終的に合計533人となりました。

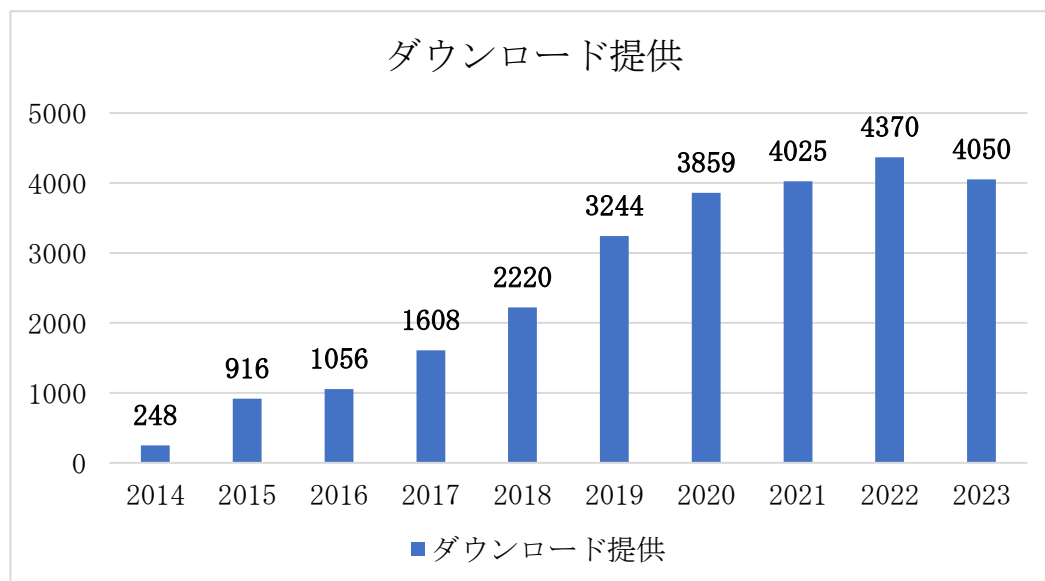


利用件数は点字図書が 440 タイトル（前年度 336 タイトル）と前年度より増えました。前年度末より始めた公立小学校宛の貸出サービス（後述）が、年間にして約 120 巻程度の貸出数が上乗せされた形となりました。一方で、音訳図書は CD 図書が 7,677 タイトル（前年度 7,792 タイトル）と減少しました。



ダウンロードによる利用は、2014年にサービス開始以来、初の提供数減となりました。今年度は利用頻度の高い利用者2名がご逝去となりました。月に20タイトルの利用がある方は、年間240タイトルの利用となります。頻繁にご利用いただいていた方が2名お亡くなりになると、その影響を大きく受けてしまいます。なお、このダウン

ロードサービス上の実利用者数は48名、一人当たりの平均提供数は84タイトルでした。



#### (イ) 点字図書・音訳図書・DVD映画音声ガイドの製作

##### a. 点字図書

前年度まではコロナ禍の対応に準じた製作体制で取り組んでまいりましたが、部分的に以前の形態に戻すこととしました。点訳についての個別の相談は、電話やZoomを基本としていましたが、対面の相談会を2回開催しました。また、前年度の点訳者養成講座修了者に対する個別指導も、対面で行いました。

校正作業は、視覚障害者と晴眼者がペアになって行います。点訳された図書を視覚障害者が読み上げ、晴眼者が原本と照合します。これまでは一つの部屋に入っている行っていましたが、コロナ禍になってからはZoomを使用したオンラインに切り替えています。この方式は完全に定着しており、2023年度も引き続きオンラインでの読み合わせを行いました。

一方、自動点訳を本格的に導入したり、BESXを用いた校正方式の導入を検討したりと、製作基盤の強化を図りました。自動点訳とは、原文に対して一文字ずつ人が入力しなければならない従来の方法に対して、点字入力を大幅に省力化できるシステムです。本格的に運用ができれば点字図書をより迅速に製作できるほか、たとえば働いていて日中忙しい方でも点字製作に携わることができると考えています。

BESXとは、点字データに校正情報を埋め込む機能で、校正・修正作業の省力化が期待できます。

こうした取り組みの下で、目標 40 タイトルを上回る 47 タイトルを製作しました。なお、経験の浅い点訳者の育成を強化したため、委託製作数が予定より 4 タイトル少ない 16 タイトルとなりました。

b. 音訳図書

音訳においては、目標の 80 冊を下回る 77 冊の製作となりました。こちらは下半期にわたって開催された音訳者養成講座の講師を音訳校正者が行っていたこと、最終課題の審査などに職員や校正者など多くのリソースが割かれたため、手元にある音訳図書の校正や完成処理が遅延したことによるものです。

c. 音声ガイド

音声ガイドの製作では、ベテランボランティアの勇退が重なったため、目標の 20 タイトルを下回る 16 タイトルの完成に留まりました。製作体制の立て直しを図るため、2023 年度は 6 年ぶりに養成講座を開催。新規ボランティア 13 名を受け入れました。20 代～40 代の比較的若い世代を迎え入れることもできたことは、大きな収穫だったと感じられます。2024 年度は引き続き丁寧にフォローし、時間をかけて定着に繋げていく方針です。

(ウ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声ガイド製作ボランティアの養成

a. 点字図書

点訳校正者会議を 4 月 26 日（来館 8 名、Zoom 参加 9 名）、10 月 4 日（来館 8 名、Zoom 参加 11 名）に 2 回開催しました。昨年度まではオンラインを基本としていましたが、来館参加を基本としつつオンラインを組み合わせるハイブリッド方式に変更しました。点訳・校正方針についての議論を行い、連絡会で配布する「点訳通信第 5 号」について検討しました。

点訳技術のスキルアップとセンターからの情報提供を目的に、点訳関係者連絡会を 2 回開催しました。第 1 回は 5 月 31 日（来館 17 名、Zoom 参加 18 名）、第 2 回は 11 月 29 日（来館 10 名、Zoom 参加 23 名）です。第 1 回では、今年度より新規導入する自動点訳方式の図書製作と、試験的に導入する BESX を用いた校正について周知しました。第 2 回では、前・後半で 2 つの内容を実施しました。前半は「点訳通信第 5 号」を配布し、新しい点訳方針を確認しました。後半は、表点訳について、多くの実例を盛り込んで研修を実施しました。



〔第1回連絡会〕（会場参加と Zoom 参加のハイブリッドで開催）

スキルアップ研修会として、エーデル講座を6月28日、7月5日・12日に開催しました（受講者5名）。本講座は、パソコンソフトエーデルSを用いて、触図（点図）を作成する技術を学ぶ講座です。主な内容は、「エーデルSの基本操作」「下図を用いた作図法」「エーデルブック形式の絵本を作る」で、講座終了後は絵本「うさこちゃんのにゅういん」を分担点訳しました。

点訳相談会は4年ぶりの開催で、11月1日、3月13日の2回です（各8名参加）。各ケースの相談の後、全体で相談内容を共有し、意見交換を行ないました。校正方針全般にわたる議論ができ、充実した会になりました。本会の内容を校正者会議に報告し、再検討した後に連絡会で全体周知するという流れを確立していきます。

#### b. 音訳図書

センターの音訳現場の課題として、次代を担う人材の確保が急務となっています。2023年度は音訳者養成講座開催の年でした。前述の理由から広報活動にはとくに力を入れ、市役所や公共図書館などにチラシを配布したほか、今回は「ふくふく」や日本点字図書館なども新たに広報先に加えました。市政だよりや朝日新聞に掲載されたことが大きく影響し、SNSなどで広く拡散され、最終的に82名の応募がありました。そこから厳正なオーディションを経て、12名を養成講座の受講生として受け入れました。残念ながら選考から外れた応募者に対しては、市内のボランティアグループを紹介するなど、希望を丁寧に



〔養成講座に関する事前説明会の模様〕

ヒアリングしたうえで仲介を行いました。

養成講座は約半年をかけて、「音声表現」や図・写真や表の「処理」などのほか、今年度から新たに加わった「調査」などを含め、全 17 回の講座で音訳の基礎技術を習得していただきました。受講生たちは初めてのことに戸惑いながらも、徐々に技術を身につけ、最終審査に臨んだ 8 名は全員が合格。2024 年 4 月にセンターの音訳者として正式に登録され、活動を始めていただきます。

センターの音訳図書制作上の課題として音訳者に対する校正者の人数不足があげられます。今年度はベテラン音訳者 3 名を校正者として養成することができました。これにより校正者は計 12 名となり、センターの蔵書制作の基盤が安定的なものになりました。

#### c. DVD 映画音声ガイド

コロナの影響など諸事情により開催を見送ってきた音声ガイド制作ボランティアの養成も再開しました。13 名のボランティアを新たに受け入れました。20 代～40 代など若い世代が増え、幅広い年齢層のボランティアが世代を超えて視覚障害者に映画の楽しみを届けるべく、力を合わせて作業に取り組みました。次年度は新規に受け入れたボランティアの定着を図るため、適切にフォローを行っていきます。



[座学：音声ガイドの概論について]

[映像を確認しながらナレーションをあわせる]

## (2) 相談・訓練事業の取り組み

### (ア) 相談・訓練実績

今年度は、訪問、来所、オンライン、電話、メール、アウトリーチの 6 つの方法からご希望に応じて対応しました。いずれの訓練・相談も、連絡があってから実施に至るまで日を置かないように、スピード感をもって対応しました。

ここ数年、相談数が増加していますが、今年度はよりその傾向が顕著にあらわれました。中でも「生活相談」が前年度比約 3 割増加したことが大きな特徴です。前年度 9 名に 239 回実施したところ、今年度は 166 名に 303 回実施しました。背景には、地域



資源や医療機関との連携によって、センター利用の裾野が広がっていることがあげられます。80歳以上の見えにくくなった高齢の方が介護従事者からセンターを紹介されたり、眼科医療機関からの紹介で比較的早期の段階、もしくは急性期の段階からセンターにつながるなど、さまざまな事情や病気、障害をお持ちの方に多くご利用いただいています。このような方々とはじめてお会いするときには、まだ障害を受け止めきれず、心の葛藤を抱え、不安が絡まっている状態のため、具体的に何かをやってみたいというニーズを最初から伺うことは難しい状況です。そのため、お話をじっくり傾聴し、どのような制度や便利な用具があるかなどの情報をお伝えしながら、少しでも自分らしい生活を取り戻していただくように支援しています。また、生活困窮や家族関係などに課題を抱えている方もいらっしゃるため、地域の他職種の方々とともに支援をしていくことも増えてきました。

また、ICT（スマートフォン）のニーズは高く、利用件数が年々増加する傾向にあるため、視覚障害当事者職員2名で担当しています。相談・訓練以外でも、利用者がiPhoneの操作でわからなくなったときは、電話や来所時に気軽にたずねることができるようにしています。そのようなことも、利用件数が増えている要因と思われます。また、いずれの職員も、自らの指導スキルや最新の知識をアップデートさせるために、各種研修に積極的に参加したり、関係団体の情報交換会で事例発表したりするなど、自己研鑽にも力を入れています。

昨年度より訓練回数は減少しておりますが、こちらは年度途中で担当職員2名が退職したことがあげられます。自分たちが指導スキルを向上させ利用者ニーズにはこたえながら、より効率的に訓練を実施することで乗り切りました。

利用者の高齢化や障害の程度、進行にあわせて、また各種制度の変更やヘルパーの事情など、社会や地域、利用者の変化に柔軟に対応することがとても大切です。川崎市という地域の中でセンターの存在が周知され、頼りにされるためにも、今後もセンターの仕事を外部にできる限り知っていただくことを意識して事業を行ってまいります。

<相談>

	相談	
	名	回
歩行	74	148
パソコン	34	92
ICT	43	136
点字	5	29
生活	166	303
その他	6	7
合計	328	715

<訓練>

	訓練	
	名	回
歩行	9	108
パソコン	2	23
ICT	2	25
点字	3	52
日常生活	4	14
その他	6	16
合計	26	238

(イ) 訓練生同士の懇親会の開催

Zoomを使用した利用者交流会(アクロス)の開催

「アクロス」とは川崎市に在住・在学・在勤している視覚障害者の比較的若い世代の自主的なサークルで、センターが協力して交流会を開催しています。20代から60代前半までの方が、毎回テーマを決めて情報交換を行います。今年度もオンラインにて3回、延べ29名の参加により、情報交換会を実施しました。金融機関利用時の困りごとや料理の工夫などをはじめ、仕事や日常生活で感じる悩みの相談、スマートフォンやパソコンの操作方法といった内容が取り上げられました。コロナの感染症分類が変更となり、少しずつ観光地やレジャー施設に外出することも増えており、施設の対応や楽しみ方といった情報交換も行われるようになってきています。

(ウ) 訓練生屋外交流会の開催

センターでは、すべての訓練が訓練生と指導員のマンツーマンで行われます。また自宅での訪問訓練も多いため、訓練生同士が交流をする機会はほとんどありません。そこで、訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交流会を実施しています。9月27日(水)、訓練生11名と付き添い、センター職員合わせて27名で横須賀市の「猿島」に行きました。晴天に恵まれ、散策にちょうどよい気候となりました。三笠ターミナルで乗船し、10分ほどで猿島に到着。猿島上陸後は、探検ツアーの音声ガイドを聞きながら島内の散策を楽しみました。三笠ターミナルに戻り地中海料理を堪能した後、訓練生の皆さん同士で歓談が始まり、iPhoneの操作に関すること、日常生活のこと、就労移行支援施設で受けた訓練の話など、幅の広い内容の情報交換がなされたようでした。交流会終了後には、

「乗船中の風や磯の香りが気持ちよかった」、「就職活動中で気が滅入っていたが、みなさんに元気をもらえた」という声をいただきました。

#### (エ) 視覚障害学生交流イベント

市内に在住または在学の視覚障害学生が、授業の様子やサークル活動、アルバイトについてなど、学生生活における情報交換、悩みの共有、工夫を伝え合う座談会を11月11日に実施しました。今回は、盲学校を除く、一般の大学や専門学校に通う視覚障害学生(程度は問わない)を対象に企画。見え方も、学ぶ分野も異なる学生3名が参加し、思い思いに自らの状況や考えを語り合いました。参加者全員が1年生ということもあり、高校までの経験談や今後の就職、将来の生活についても話題に上がりました。

### (3) 視覚障害者用具の展示と斡旋

今年度は1,490点(前年度1,215点)の斡旋を行いました。

見えづらさによる様々なニーズに応えられるよう、新商品を展示品として積極的に取り揃えました。視覚障害の進行や年齢を重ねることで、文字を拡大するだけではその情報を読み取ることが困難になってきた方が来所されることもあり、音声読み上げ機能付きの拡大読書器の新商品を展示品に加え、商品の選択肢を増やせるように努めました。



〔新商品:センスプレーヤー〕

(OCR機能付き携帯型マルチプレーヤー)

また、メモを取ることが困難になってきた方から問い合わせをいただくことの多いICレコーダーも、ボタンをスライドするだけで録音できる商品を展

示品に加え、実際に操作して使い勝手をお試しいただけるようにしました。さらに、新商品「センスプレーヤー(携帯型OCR機能付きマルチプレーヤー)」は非常に多機能で、活字文書の読み上げのほか、デイジー図書の再生やダウンロード、ラジオや色の読み取り等も可能な商品なため、利用者様には時間をかけてお試しいただくなど、ニーズに合った商品選択をしていただけるよう努めました。

用具の斡旋事業は、当事者のQOL向上につながる大切な事業で、今後も来所者が増えてくると思われますので、視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの生活訓練スタッフと共に、課題解決のツールとして斡旋できるように努めてまいります。

#### (4) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

##### (ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

眼科医療者や、神奈川県内の視覚リハビリテーション関係の団体との情報交換をオンラインで定期的に行うことにより、多方面の方々と連携する機会をもつことができました。また、小学校の福祉の授業での講演依頼が5校からあり、職員を派遣しました。

##### a. 眼科病院医療者との定例会「ビジョンサポート川崎」や研修

川崎市内を中心とした眼科医療者と当センターの毎月1回情報交換の場「ビジョンサポート川崎」をオンラインで持つようになって、丸4年がたちました。お互いの専門性を知り、課題などを少しずつ共有するなかで、眼科医療、障害福祉、高齢福祉が互いにより近づいて支援していくきっかけづくりの必要性を感じ、メンバーの眼科医師が、高齢者の支援者（ケアマネージャーや介護従事者ら）に対して「知って活かそう—高齢者の見えにくさがもたらす影響とリハビリの大切さ—」と題してご講演して下さることになりました。多方面に参加を促したところ、48名もの方に参加して



いただきました。先生から眼疾患と心身に及ぼす影響についてわかりやすく説明していただき、またセンター職員からは高齢者支援の実際について紹介しました。「見えなくてもリハビリにつながれば笑顔と自信を取り戻せる」という先生の温かなメッセージを通して、視覚障害リハビリテーションの重要性を参加者に十分に伝えることができたと思っています。「ビジョンサポート川崎」は、このような活動を積み重ねることで、それぞれが同じ方向を向いて、その役割を果たす視点を持てるようになったと思います。

また、ビジョンサポート川崎メンバーの視能訓練士が非常勤講師をしている東京医薬看護専門学校の視能訓練士科の学生たちが当センター施設見学にきたり、当センター職員が学校に出向き「視覚リハビリテーションの実際と歩行訓練士の仕事」の講義を行いました。教育分野との連携も大切にしています。

##### b. 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事例検討会（オンライン）

視覚障害者に対する支援・訓練を行っている神奈川県内の学校・施設の集まりです。歩行訓練部会、コミュニケーション訓練部会、乳幼児部会、事務連絡会、職員研修に合計7回参加しました。11月16日に行われた職員研修は、普段はオンラインが

中心ですが、横須賀市点字図書館の施設見学と点字版ハザードマップについて意見交換がおこなわれました。ここで県内の視覚障害に関連する情報を定期的に得ることができています。

c. ICT ボランティアグループとの連携

近年、特に視覚障害者から iPhone の操作指導に関するニーズが高く、センターだけで市内全域をきめ細かくサポートすることはできません。そこで、センターと地域にある ICT ボランティアグループが連携し、当事者が地域の中で仲間と共に勉強し合える環境作りの支援を行っています。今年度は川崎パソコンユーザー会（川崎区）、KPC（中原区）、宮前キーボードの会（宮前区）、あさお PC クラブ（麻生区）の 4 団体との勉強会を実施した他、2021 年度から始まった情報交換会を継続して行いました。

- ・ 4 団体の代表者による「ICT 部会勉強会」（11 月 30 日、オンライン）に参加しました。センター側からの知見や調査結果を共有しました。
- ・ 「ICT 情報交換会」を Zoom によるオンラインで開催（2 月 22 日）。各会の活動状況を報告し合い、課題の共有、情報交換を行いました。

d. 用具展示会

神奈川県ライトセンター主催の「かなエール」（2023 年 7 月 29 日開催）に、用具展示で参加しました。情報をご自身で取れている方、訓練をすでに受けた方、家族からの支援が手厚い方、ガイドヘルパーを利用されている方が多くいらしていました。白杖、爪やすり、体操ブービー、時計などの購入、見積依頼につながりました。（来場者：視覚障害者 25 名、その他 28 名、計 53 名）

## (イ) 啓発・普及

市内の小学校の福祉の授業に、当センターの視覚障害職員を派遣し、日常的にどのように工夫して生活しているか、できること、困ることなどをお話しし、さらに子供たちの質問に答えることを通して障害者のことを理解してもらいました。今年度は高津小、田島小、向小、宮前小、今井小の5校に講師を派遣しました。

### a. 同行援護従業者（一般過程）研修「同行援護の基礎知識」講師派遣

日時 5月17日・7月5日・10月3日・2月9日（延べ参加者47名）

場所 総合研修センター（ふくふく2階）

内容 同行援護従業者の養成研修が4回開催されました。その中の「同行援護の基礎知識」に講師を派遣。午前は、当センターを見学、視覚障害者の生活用具や図書の貸出について、実際の物や様子を見てもらいながら説明をしました。午後は、視覚障害者が用具を実際にどのように使って生活しているか、また、用具の給付制度についてなどの説明をおこないました。視覚障害者の生活について、用具やそれに関する制度の紹介や、ICT利用と当事者としての体験や工夫などを交えた講義を行いました。

### b. 高津小学校の全盲の児童への支援

高津小学校5年生の全盲の児童への支援を継続しました。担任教諭との定期的なオンラインミーティングを通じて、点字教材・試験問題の検討や、学校生活での困りごとの相談に対応しました。また、全盲の児童が、自習の時間、読書の時間に自分で好きな本が読めるよう、センターが選定した図書を定期的に貸し出すサービスを継続しました。2023年2月より、毎月25冊のペースで貸し出しを始めましたが、児童の利用状況を考慮して2か月で30冊を貸し出す方式に変更しました。担任教諭と連携し、授業で扱った内容などを反映した選書を加える試みも始めています。

## (5) 広報活動・イベントの開催

### (ア) 広報活動

#### a. センター事業説明会

視覚に障害をもち様々な不便さを感じている方々が早期に当センターに繋がるように、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々、医療従事者に対して、毎年1回、センターの事業説明会を行っています。区役所、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンタ



[事業説明会の様子]

一、病院から24名、昨年の約2倍もの参加がありました。当センターから、図書の貸出、歩行訓練、パソコン訓練、iPhone訓練、生活訓練、便利な用具の斡旋などについて担当から具体的に説明しました。アンケートからは、センターの「事業内容」や「どのような支援が受けられるか」ご理解いただけたこと、さらに「視覚障害のある方のご相談を受けた時に、相談できる、力になってくれる機関があることを知れた。」「今後お困りの患者様をご紹介できればと思います。」「実際に補装具や日常生活用具、一般の便利グッズをみせていただけて、勉強になりました。」などの感想もいただきました。いただいた質問には、後日お答えするなど丁寧に関係をつくっていくことで連携を深めていきたいと思っております。

b. 第7回手をつなぐフェスティバルへ参加

11月18日とどろきアリーナにて、楽しみながら交流し、障害への理解・共生の意識を深めることを目的に「手をつなぐフェスティバル」が開催されました。職員2名が参加し、机2台分に点字体験、便利グッズの紹介、白杖体験コーナーを開設しました。15組28名が参加され、小中学生は点字を学校で習うこともあり、関心度は高い様子でした。今回は、視覚障害当事者の相談、施設における点字ブロック敷設にかかる相談もありました。市民に視覚障害、センターについて知ってもらう良い機会になりました。

c. メディアによる広報

利用者・ボランティア・支援者の方々へ、次のメディアにより広報を行いました。

● 新刊図書情報誌「ぶっくがいで」（偶数月、年6回発行）

2か月に一度発行する情報誌です。新刊の点字図書、音訳図書、シネマ・デイジーや人気のある図書のほか、音声解説付きDVD映画体験上映会、音楽コンサート、読書会などのイベント情報、新商品情報などを掲載しています。昨年度に引き続き、今年度の8月号まで、オブリガード（川崎市視覚障害者ボランティア連絡会）の特集記事を加えるなどし、利用者向けのセンター発行物として中心的な役割を担っています。点字版、音声デイジーCD版、墨字版の3媒体があり、ご要望に応じてお送りしています。CD版は2024年2月号より、封筒を変更し、経費削減に貢献しました。

\*2024年3月末時点、2024年4月号発行数（1号分発行数目安）

点字版 83部、音声デイジーCD版 204枚、墨字版 288部

- メールマガジン「アイ<sup>アイ</sup>eye」(月2回、10日・25日に発行)

メールマガジンは、インターネットを通してパソコンやスマートフォン、携帯電話に送信するメールの広報誌です。タイムリーな情報、イベントの紹介、センター周辺の変化、職員のコラム、図書や用具の紹介などが掲載されています。読者からは「役立つ情報が助かる」「センター職員をより身近に感じる」と好評をいただいています。200号は号外を発行し、9名の方から読者の声を寄せていただきました。今後も読者の方との双方向のやりとりを大切に、発行を重ねていければと考えます。

\*2024年3月末、登録者数 361人

- 音声版メールマガジン「音声版アイ eye」(奇数月、年6回発行)

メールマガジンを読むことができるのはパソコン、スマートフォン、携帯電話の利用者のみに限定されます。もっと多くの方に利用していただくため、メールマガジンの音声版を発行しています。2ヵ月、4号分をまとめ、合成音声で読み上げた音声版を貸し出しています。

\*2024年3月末、貸出者数14人(1号分の貸出者実数)

- ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/> (毎月・随時更新)

ホームページでは、各種イベントをはじめとしたお知らせの他、センターに初めて関わりを持つ方が知りたい情報を掲載しています。アクセシビリティに配慮し、文字の大小、白黒反転を選択することができます。スクリーンリーダーで読み上げた時に、聞き間違えにくいように言葉の区切りにも注意しています。また、スマートフォンで閲覧する方のためにスマホ専用サイトも用意しています。

#### (イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

今年度は、春のコンサート、冬のコンサート、センターまつり、音声解説付きDVD映画体験上映会(毎月)、歴史的音源を聴く会(れきおんクラブ:隔月)、CDで聴くクラシック音楽講座(隔月)、ヨガ教室(20回)、読書会(年2回)等を開催しました。

- a. 春のコンサート(福本純也ピアノトリオ)

5月13日午後1時30分から、ふれあいプラザかわさき2階ホールで開催しました。約80名の申し込みがあり全席指定席にし、席間を約1メートル離し、ホールの



窓を開け、空気清浄機4台、送風機4台を配置しました。受付では、手指消毒、体温測定を実施。配布するプログラムは席の上に置き、受付後、すぐに着席してもらうようにしました。また、合間のトイレ休憩で密にならないように、こちらから列を指定して順番に行ってもらるようにしました。

福本純也さんは、川崎市在住のジャズピアニストです。市内の様々なイベントにも参加されている方で、2022年度にはセンターでジャズ講座を5回にわたり開催していただきました。今回はピアノ、ベース、ドラムという編成のトリオで出演していただき、お馴染みのジャズの名曲から、ブルース、ラテン音楽をジャズにアレンジした曲など、多彩な曲で観客を魅了しました。「うっとりしました。」「アレンジがすごかったです。全く違う曲が入っていて楽しかったです。」「迫力があり、とても素晴らしい。」などの声があり、皆さまにジャズの生演奏を堪能していただきました。



[福本純也ジャズトリオ]

#### b. センターまつり

コロナ禍で開催できなかったセンター最大のイベント「アイ eye センターまつり」を、4年ぶりに開催しました。センターを利用されている方も、初めて来る方も、皆さんにとって有益で、楽しんでもらえるイベントを目指しました。今回のアイ eye センターまつりのテーマは5つ、視覚障害者のための相談コーナー、市内のボランティアの活動紹介、点字や音声パソコンなどの各種体験会、最新視覚障害者用機器の展示会、ライブイベントの開催です。川崎市視覚障害者ボランティア連絡会（愛称：オブリガード）、川崎市視覚障害者福祉協会の協力を得て、約200名もの方にそれぞれの企画を楽しんでいただきました。



[ふれあいプラザかわさき入口]



[用具販売所の様子]



〔隅田川馬石落語会〕



〔会場の様子〕

c. 冬のコンサート（和波たかよし&土屋美寧子 デュオ・コンサート）

2月10日午後1時30分から、ふれあいプラザかわさき 2階ホールで開催しました。国際的ヴァイオリニストである和波たかよしさんとピアニストの土屋美寧子さんをお招きしてのコンサートには、センター史上最多となる142名の方にお集まりいただきました。当日のコンサートでは、和波さんご自身と指揮者である小澤征爾



さんとの関係に触れられたのちに、追悼の意を込めてバッハの名曲「G線上のアリア」を演奏し、黙祷をささげられてから、プログラムの曲へと移ったのでした。軽やかに歌うようでもあれば、朗々と吟ずるかのようにも鳴る和波さんのヴァイオリンは、来場者の全員に心地よく広がり、アンケートからは「お二人の息の合った演奏がすばらしかったです。」「普段聴かないクラシックが身近に感じられ楽しかった。」「息づか

〔和波たかよしさんと

土屋美寧子さんの演奏の様子〕

いも感じられるところで拝見でき、感動しました。」「あたたかい音色に感動しました。」などといった声がたくさん寄せられました。

d. 音声解説付き DVD 映画体験上映会

音声解説付き DVD 映画体験上映会はとても人気のあるイベントです。毎月2回、平日と土曜日の2日間同じ映画を上映し、各回定員30名、予約制にして開催しました。映画体験上映会は安定的に人気のあるイベントで、コロナ禍から日常生活が徐々に戻ったこともあり、作品によっては満席に近い申し込みがありました。今年度は中止することなく予定どおり24回開催することができ、延べ参加者数は2022年度より2割増え、489名の参加者がありました。

## トピックス：UDCast 入門ミニ講座と体験上映会

近年映画館のバリアフリー化は進み、当事者も話題作や新作を、スマートフォンアプリ「UDCast」を利用すれば劇場で最新作をリアルタイムで楽しめるようになっていきました。ただ環境が整っていたとしても、いきなり映画館に足を運ぶとなると抵抗を感じる方が多く、加えて、事前にアプリの使用方法を学びたいと希望しても、そのようなイベントは少ないという現状があります。

本イベントでは「UDCast の入門ミニ講座」と「UDCast 体験上映会」の両方を企画。事前に「入門ミニ講座」で不安を感じている方に操作方法を説明したうえで、センターの上映会本番に臨んでいただきました。

スマートフォンのアプリを使用するという事で参加者は限定的になると推測していましたが、関心は思いのほか高く、定員を 30 名から 40 名に拡大して対応。上映会本番は大盛況で、上映後のアンケートでは、88%の当事者が「このアプリを使って、映画館で映画を鑑賞したい」という回答がありました。



[スマートフォンを手に持ち  
映画を鑑賞する参加者]

### e. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）

国立国会図書館が所有する約 5 万点の SP レコードや金属原盤の音源コレクションをテーマに沿って紹介するイベント「れきおんクラブ（歴史的音源を聴く会）」を年 6 回、奇数月の第一土曜日に開催しています。今年度は、映画に舞台上に燦然と輝く大スター、美空ひばり・江利チエミ・雪村いづみを特集した「三人娘がやって来る」、NHK 連続テレビ小説の主人公として話題のブギの女王・笠置シズ子を特集した「リズムウキウキ ブギウギ!」、現在の紅白歌合戦の形式で初めて開催された「蘇る！ 第 4 回紅白歌合戦」などなど、様々な種類の曲を専門家の丁寧な解説つきで、参加者の方々にお楽しみいただきました。

### f. CD で聴くクラシック音楽講座

2023 年度の新たな企画として、クラシック音楽を CD で鑑賞する音楽講座を 2 か月に一度、偶数月に開催しました。クラシック音楽は、大変に幅が広く、様々な側面があります。また、何となくむずかしく感じている方もいらっしゃいます。そこで、こ



[解説する講師]



[参加者の様子]

の音楽講座ではクラシック音楽をわかりやすくひも解くと同時に、選りすぐりの名演を聴いていただくことによって、音楽の新たな発見とその真の魅力を知っていただくことを目的に企画しました。作曲家をシリーズにして、毎回1、2名を取り上げ、音楽史、楽曲の形式、楽器の種類、楽譜の基本等を必要に応じて講師が初心者にもわかるように説明したうえで、名曲・名演奏をセンターの高音質のオーディオシステムで聴いていただきます。2023年度は、チャイコフスキー、ショパンとリスト、モーツァルト、ベートーヴェン、バッハ、シューベルトの曲を聴いていただきました。みなさん、名曲を堪能すると共に、講師の解説を通して作曲家の様々な側面を知ることができたと好評をいただきました。

g. ヨガ教室

ヨガの講師は前年度同様、「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方に依頼しています。安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。

新型コロナウイルス感染対策のため縮小していた定員を最大16名としました。Zoomを使ったオンラインヨガも継続して実施いたしました。対面クラスは延べ310名と前年の約2倍、オンラインヨガは延べ16名の方が参加されました。また、「ヨガをやっ



[ヨガ教室：対面クラス]



[ヨガ教室：対面&オンライン同時開催クラス]

てみたいけれど、センターは遠くて行けない」と諦めていた方のために、2023年度新企画として、高津区と麻生区で出張ヨガ教室を各2回開催し、延べ46名の方に参加していただきました。

また、参加者同士でお昼を食べながら気軽にお話できる「ヨガランチ会」をセンターで2回開催しました。それぞれがお弁当を持ち寄り、生活の工夫、耳よりの情報、最近食べておいしかった食べ物などなど、様々な情報交換を通して、楽しい交流の時間を過ごしました。

#### h. 「小説の中の味と香りを楽しむ会」（読書会）

盲人図書館時代から続く歴史ある行事「読書会」は、1つの作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。昨年度、本をより実感を持って味わってもらおうと、「小説の中の音を楽しむ会」という企画にして、小説を音声で聞き、そこに登場する音楽をCDで聴く会を開催したところ、参加者が6倍に増えました。今年度は「味」をプラス要素として開催しました。

##### ● 第1回 小説の中の味と香りを楽しむ会

・日時 2023年6月16日 午後1時30分～午後3時30分

・作品 「しあわせのパン」三島有紀子著 参加者 29名

地元のパン屋さんの協力を仰ぎ4種類のパンを人数分用意し、テーマ小説「しあわせのパン」をデイジー図書で聞きながら、そこに登場する色々なパンを味わいました。また、センター内でコーヒーをドリップすることで、味だけでなく香りも提供。傷ついた主人公がパンを食べるシーンや、誕生日を祝うシーンで、主人公と同じような気持ちで同じものを参加者全員で食べ、心情を理解しながら感動を共有しました。

小説に関する感想のほか、出席者自身が読んで面白かった本の紹介や、人生最後の時に食べたいものなど、活発な発言があり盛況でした。久しぶりに本を読んだという方もいて、食べ物という非常に身近なアイテムで、読書を楽しみ、気軽に読書につなげられるイベントとなりました。



[第1回読書会の様子]



[小説に出てくるパン]

- 第2回 小説の中の味を楽しむ会
  - ・日時 2024年1月13日 午後1時30分～午後3時30分
  - ・作品「和菓子のアン」坂木司著 参加者 31名

参加人数分の上生菓子などを参加者に提供。小説の中に出てくる和菓子を皆さんで味わいながら、テーマ図書の小説を聞き、読書を楽しみました。「ここでしか味わえない読書の楽しみ方だ」と好評をいただきました。感想を語り合う時間には、活発な発言があり、コロナ禍ではできなかった「一つの作品を皆で読み、語り合う楽しさ」を存分に楽しむことができました。続編を希望する方も複数おり、次の読書にもつながるイベントでした。



[小説に出てくるお菓子]

### トピックス：浪曲体験講座

浪曲師で演歌歌手の澤雪絵さんのご厚意で、視覚障害者の浪曲体験講座が9月9日センターで行われました。まずヨガマットの上にあおむけになり、腹式呼吸の方法の指導を受けます。そのあと浪曲「唐笠桜」を澤さんが歌った後、その一節を、参加者一人一人にうたってもらいました。最初は恥ずかしそうにしていた人も、先生が横で一節ずつ耳元でうたってくれるので、だんだんコツをつかみ、終わりごろには皆さん思い思いに節をつけ、みごとに啖呵を語っていました。初めての体験に、「楽しかった～」という声があちこちから聞こえてきました。また、第2部では演歌歌手でもある澤さんが、5曲の演歌を披露していただき、大盛り上がりの講座でした。



[会場の様子]



[澤さんと一緒に浪曲を歌う視覚障害者]

## (6) 防災・減災

### (ア) 避難訓練の実施

ふれあいプラザかわさき全体で行う消防訓練に参加。発災した際の各自の役割を意識し、避難を行いました。また、多摩川氾濫を想定した水害時は、センターは垂直避難となり、この場に留まることが避難行動となります。そのことを職員に伝え、水害時の避難訓練といたしました。

### (イ) 緊急連絡網の整備

職員、パート職員へ緊急時にすぐに情報伝達できるよう個人の携帯電話番号、メールアドレスを管理しており、定期的に一斉にメールを送信し、受信可能な状態であることを確認しました。万が一の災害時はもちろん、天候急変による警報発生時の対処についても、職員に連絡できるようにしています。

### (ウ) 新型コロナウイルス感染予防対策について

- a. 除菌担当エリアを3グループに分け、毎朝朝礼後に実施するようにしました。5月の新型コロナウイルス5類移行に伴い、朝の消毒を廃止し、来所者があった場合のみ、使用後に消毒をするようにしました。
- b. 5月以降は、体温測定・手指消毒・マスクの着用は個人の判断で行ってもらうようにしました。
- c. ヨガ教室、音声ガイド付きDVD映画体験上映会、れきおんクラブ、CDで聴くクラシック音楽講座のような人が集まるイベントでの体温測定・手指消毒も、5月以降は個人の判断で行ってもらうようにしました。
- d. コンサート、センターまつりの落語会では、ふれあいプラザかわさき2階ホールの定員数まで入場可能としました。空気の循環に配慮し、合間のトイレ休憩はエリアごとに順番に案内し、終演後の退出の際、なるべく密にならないように順番に退席してもらうなどの配慮をしました。

### (エ) 新型 AED に機器交換

3月13日、現在センターにあるAED機器がリース期間近のため、川崎市より新型のAED機器が支給され、交換しました。事務室入口付近に設置し、バッテリーのステータスランプを毎日、確認しています。



## (7) その他

川崎市視覚障害者福祉協会への連携強化事業について

当センターが再委託する形で、川崎市視覚障害者福祉協会が「視覚障害者アクセシビリ

ティ支援事業（＊）」を実施しました。

（＊）視覚障害者の iPhone 操作をサポートできる晴眼サポーターの養成、視覚障害者が iPhone を体験できる講座を開催する事業、個別にサポートする事業。

**【実績】**

iPhone サポーター養成講座	2回	延べ24名
iPhone 体験講座	3回	延べ17名
当事者への個別サポート	12回	12名



### 3. 利用状況

#### (1) 閲覧・貸出

	2023 年度	2022 年度
① 利用登録者数	533 名	521 名
(新規登録者数)	39 名	20 名
(点字使用者数)	122 名	128 名
② 利用登録団体	306 施設	304 施設
(新規団体登録数)	2 団体	7 団体
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,729 タイトル	3,608 タイトル
(冊数)	13,103 冊	12,733 冊
蔵書数の変化 (新収書)	121 タイトル	151 タイトル
	370 冊	425 冊
貸出数	440 タイトル	336 タイトル
	1,339 冊	1,125 冊
(内 他館借受)	85 タイトル	76 タイトル
	304 冊	264 冊
(雑誌)	187 タイトル	213 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	21 タイトル	28 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	6,953 タイトル	6,579 タイトル
(枚数)	6,988 枚	6,615 枚
蔵書数の変化 (新収書)	374 タイトル	447 タイトル
	374 枚	447 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	11 タイトル	0 タイトル
	65 巻	0 巻
(イ) CD図書	7,677 タイトル	7,792 タイトル
(内 他館借受)	3,417 タイトル	3,485 タイトル
(ウ) CD雑誌	3,586 タイトル	3,954 タイトル

	2023 年度	2022 年度
デージー図書コンテンツダウンロード提供 メモリーメディア	4,050 タイトル	4,370 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	317 件	583 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	47 タイトル 182 冊	52 タイトル 198 冊
内訳		
委託製作数	16 タイトル 65 冊	23 タイトル 87 冊
委託外製作数	31 タイトル 117 冊	29 タイトル 111 冊
(イ) 寄贈	29 タイトル 88 冊	32 タイトル 92 冊
(ウ) プライベートサービス	5 タイトル	11 タイトル
② 音訳図書の製作数		
(ア) 製作数	77 タイトル	86 タイトル
内訳		
委託製作数	64 タイトル	65 タイトル
委託外製作数	13 タイトル	21 タイトル
(イ) デイジー編集	77 タイトル	86 タイトル
(ウ) 寄贈	96 タイトル	104 タイトル
(エ) プライベートサービス	24 タイトル	19 タイトル
内訳		
音訳	11 タイトル	11 タイトル
テキストデイジー (合成音声デイジー含)		
	8 タイトル	3 タイトル
プレーンテキスト	3 タイトル	3 タイトル
PDF	2 タイトル	0 タイトル
テープのデイジー化	0 タイトル	2 タイトル

	2023 年度	2022 年度
③ テキストデイジー図書の製作数	4 タイトル	5 タイトル
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数		
製作数	16 タイトル	25 タイトル
内訳		
センター内製作数	2 タイトル	10 タイトル
委託製作数	14 タイトル	15 タイトル
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成		
① 点訳ボランティア養成講座		
開催回数	—	16 回
実受講者数	—	4 名
② 点訳ボランティアスキルアップ研修会（エーデル講座）		
開催回数	3 回	—
延べ受講者数	15 名	—
③ 点訳関係者連絡会		
開催回数	2 回	2 回
延べ受講者数	68 名	63 名
④ 点訳校正者会議		
開催回数	2 回	2 回
延べ受講者数	36 名	30 名
⑤ 点訳相談会		
開催回数	2 回	—
延べ受講者数	16 名	—
⑥ 音訳ボランティア養成講座		
開催回数	17 回	—
実受講者数	8 名	—
⑦ 音訳ボランティア連絡会		
開催回数	2 回	2 回
延べ受講者数	49 名	51 名
⑧ 音訳ボランティアスキルアップ研修会		
開催回数	—	4 回
延べ受講者数	—	35 名

(4) 相談・訓練事業の取り組み

		2023 年度		2022 年度	
① 相談	相談者数	328 名	715 回	217 名	588 回
	歩行	74 名	148 回	53 名	146 回
	パソコン	34 名	92 回	31 名	88 回
	ICT	43 名	136 回	26 名	99 回
	点字	5 名	29 回	1 名	8 回
	生活	166 名	303 回	99 名	239 回
	その他	6 名	7 回	7 名	8 回
② 訓練	訓練者数	26 名	238 回	59 名	495 回
	(新規訓練者数)	6 名		14 名	
内訳 (複数提供あり)					
	歩行訓練	9 名	108 回	17 名	263 回
	パソコン訓練	2 名	23 回	4 名	17 回
	ICT 訓練	2 名	25 回	12 名	63 回
	点字訓練	3 名	52 回	2 名	13 回
	生活訓練(日常・調理)	4 名	14 回	10 名	97 回
	その他	6 名	16 回	14 名	42 回
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数		399 点		387 点
	販売紹介点数		1,490 点		1,215 点

(5) 啓発・普及

① 事業報告会の開催

1 月 センター事業説明会 参加者数 24 名

② 授業・講座への講師派遣

(ア) 当事者職員による「視覚障害者の生活について」小学校授業

6 月 7 日	高津小学校 4 年生	約 220 名
10 月 27 日	田島小学校 4 年生	76 名
12 月 12 日	向小学校 4 年生	約 60 名
1 月 11 日	宮前小学校 4 年生	約 130 名
2 月 2 日	今井小学校 4 年生	113 名

(イ) 同行援護従業者研修講師

総合研修センターにおいて実施された同行援護従業者（一般過程）研修  
「同行援護の基礎知識」講師派遣

5月17日・7月5日・10月3日・2月9日 延べ参加者 47名

(ウ) オンライン研修会の開催「知って活かそう—高齢者の見えにくさがもたらす  
影響とリハビリの大切さ」

7月22日 市内の高齢視覚障害に関わる医療・介護従事者 48名参加

(エ) 東京医薬看護専門学校（江戸川区）授業講師

11月28日 視能訓練士科2年生25名「ロービジョン医学」の授業で「歩行  
訓練士の仕事、視覚リハビリテーションの実際」について講義

③ 訓練生交流会の開催

(ア) Zoomを使用した利用者交流会

当事者間の情報交換会（6, 10, 2月） 開催数3回 延べ参加者数 29名

(イ) 屋外交流会（9月） 横須賀市猿島

参加者27名（内訳：訓練生11名+付き添い8名+職員8名）

④ イベントの開催

(ア) CDで聴くクラシック音楽講座 開催数 6回 延べ参加者数 135名

(イ) ヨガ教室 …………… 開催数 20回 延べ参加者数 326名

(ウ) 音声解説付きDVD映画体験上映会 開催数 24回 延べ参加者数 489名

(エ) 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 開催数 6回 延べ参加者数 135名

(オ) 出張ヨガ教室 …………… 開催数 4回 延べ参加者数 46名

(カ) 春、冬のコンサート（5月, 2月） 開催数 2回 延べ参加者数 210名

(キ) 小説の中の味を楽しむ会（6月, 1月） 開催数 2回 延べ参加者数 60名

(ク) UDCast 体験上映会（8月）…………… 参加者数 40名

(ケ) 浪曲師 澤雪絵の浪曲体験講座（9月）…………… 参加者数 15名

(コ) センターまつり（12月）…………… 参加者数 192名

(6) その他（再委託事業）

事業名 : 視覚障害者情報アクセシビリティ支援事業

委託先 : 川崎市視覚障害者福祉協会

事業内容 : iPhone サポーター養成講座 2回 延べ24名

iPhone 体験講座 3回 延べ17名

当事者への個別サポート 12回 12名